

氏名(本籍)	あお やま きよ ひで 青 山 清 英 (茨 城 県)		
学位の種類	博 士 (コーチング学)		
学位記番号	博 甲 第 5142 号		
学位授与年月日	平成 21 年 3 月 25 日		
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当		
審査研究科	人間総合科学研究科		
学位論文題目	走幅跳のパフォーマンスに影響を与える質的要因と量的要因の関係に関する研究		
主査	筑波大学教授	博士(学術)	山 田 幸 雄
副査	筑波大学准教授	博士(体育科学)	尾 縣 貢
副査	筑波大学教授		宮 下 憲
副査	筑波大学准教授	博士(医学)	向 井 直 樹

## 論 文 の 内 容 の 要 旨

### (目的)

新しい運動の習得や欠点を修正する場合には、まず、第一に運動経過の分析が行われなければならないが、この運動経過の分析は選手、コーチおよび研究者などによる科学的分析として行われている。しかし、これらの分析結果の間には「理論と実践の乖離」といわれるような差異が存在してきた。本研究では、走幅跳を対象として「選手の自己観察内容」、「コーチの他者観察内容」、「バイオメカニクスの分析結果」の関係について明らかにすることを目的とした。

### (対象と方法)

研究の全体は、選手の内観分析と運動意識調査およびコーチの他者観察から成る質的研究とバイオメカニクスの分析から成る量的研究から構成された。被験者については、国内の一流選手を含む7名の走幅跳選手と国内一流選手を育成したことのあるコーチを含む5名のコーチを被験者として用いた。分析対象試技は選手によって運動感覚的に成功、失敗と判断され、かつ跳躍記録が最も高い試技と低い試技であった。これらの試技について3つのそれぞれの分析方法により検討した結果、次のような結果が得られた。

### (結果と考察)

選手の自己観察内容とコーチの他者観察内容は当該試技の成功、失敗の判断をする際の質的要因であるのに対して、バイオメカニクスの分析結果は量的要因と位置づけられた。そして、走幅跳のパフォーマンスに影響を与える要因は、質的な要因としては選手、コーチ共に助走全体の流れ(リズム)や踏切に関わる運動感覚的内容が挙げられ、量的要因としては踏切準備局面における上体角および踏切局面での股・膝関節の伸展角速度、振上脚大腿の角速度が挙げられた。

以上のことから、選手の自己観察、コーチの他者観察、バイオメカニクスの分析がそれぞれの試技の成功、失敗を判断する観察対象となる運動局面は、バイオメカニクスの分析では踏切準備、踏切局面であり、選手とコーチは成功と判断する場合には助走、踏切局面を対象にしており、踏切局面が3つの分析法で一致した観察対象の運動局面となる。これに対して、失敗と判断する場合には選手は助走、踏切局面を、コーチは踏切準備局面を挙げていた。バイオメカニクスの分析とは選手が踏切局面で、コーチが踏切準備局面で一致していた。

## 審査の結果の要旨

これらのことから、当該試技が成功と判断された場合には、先行研究に示されるとおり、選手の自己観察が一次的であること、また選手とコーチでは成功と判断した際の判断内容の一致度が高いことから「助走の流れ(リズム)」という助走全体の運動経過に関する選手の自己観察内容を基軸として、それにコーチが内的・外的イメージとして捉える「助走の流れ(リズム)」に関する他者観察内容をすり合わせる 것이重要である。これに対して失敗と判断された場合では、選手とコーチは異なる運動局面で判断をしているが、選手の判断理由が一次的であるため、コーチは踏切準備局面で問題を把握するにしても、選手の運動を観察する場合には「助走の流れ(リズム)」に注意をはらいながら観察することが要求される。そして、バイオメカニクスの分析は判断する運動局面の一致、不一致はあるものの選手、コーチは得られた結果が量的データによることから実践で有効に利用するためには、共感可能な主観情報へと変換する必要がある。このようなことから3つの分析方法は、まず選手とコーチに関わる分析法の関係が最も重要で、次いでコーチとバイオメカニクス、選手とバイオメカニクスそれぞれの関係が並列に位置づけられることになることが明らかとなった。

よって、著者は博士(コーチング学)の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。